

## 2025年度 日本福祉心理学会九州部会・九州福祉心理研究会 公開研修会 開催報告

テーマ：福祉心理職における将来の展望

企画趣旨：本研修会では、保健医療福祉の分野で幅広くご活躍され、人生の困難に直面する多くの人々を支えてこられた大西良先生をお迎えします。これまでの実践の歩みを通して、福祉心理職の役割と可能性を学び、将来の展望について理解を深める機会とします。さらにシンポジウムでは、福祉心理学の実践をもとに、新たな福祉心理職の道筋について参加者の皆様とともに展望します。

日時：2025年11月8日（土）13：00～16：00

会場：西九州大学神埼キャンパス 3号館 2階 322 講義室（佐賀県神埼市神埼町尾崎 4490-9）

参加者：日本福祉心理学会会員、福祉・教育関係者、学生等、36名



基調講演：講師（筑紫女学園大学人間科学部人間科学科心理・社会福祉専攻 准教授 大西良氏）  
タイトル「福祉心理職における将来の展望  
～カウンセリングとソーシャルワークの視点から～」

シンポジウム：タイトル「福祉・心理職の現状とこれから」

コーディネーター（福岡女学院大学人間関係学部心理学科 教授 大迫秀樹氏）

コメンテーター（筑紫女学園大学人間科学部人間科学科心理・社会福祉専攻  
准教授 大西良氏）

シンポジスト（社会福祉法人慈愛会 児童養護施設清心慈愛園  
心理士 小川茜氏）

（一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡  
相談員 村川亜弥子氏）

研究発表：タイトル「佐賀県におけるヤングケアラー支援に向けた福祉、介護、医療、教育等の連携  
支援に関する実態及び課題に関する調査」

発表者（西九州大学健康福祉学部社会福祉学科 准教授 加藤稔子氏）

タイトル「障がい者の親なき後に対する専門職としてのかかわり」

発表者（西九州大学健康福祉学部社会福祉学科 准教授 占部尊士氏）



感想：社会貢献活動や福祉的支援の実践を通して、福祉職および心理職の現状を学ぶとともに、福祉心理職のこれからについて深く考える貴重な機会となりました。

基調講演では、これまで数多くの社会貢献活動に携わってこられた大西良先生による、人生をかけた人道的な支援の歩みに触れ、その活動の広がりや深さに強い感銘を受けました。長年にわたり困難を抱える人々に寄り添い続けてこられた実践活動は、福祉心理職の役割と可能性を力強く示すものであり、その社会的意義の大きさをあらためて実感する機会となりました。シンポジウムでは、いわば「声なき声」にどのように耳を傾げるのかという課題が共有され、心にふれる福祉心理職の実践的なかわりについて活発な議論が交わされました。社会正義とは何か、人間の尊厳とは何かといった根源的な課題も示され、福祉心理職の専門性の基盤について深く省察する機会となりました。さらに、研究発表・実践報告では、ヤングケアラーの実態と支援方法、障がい者の親なき後の支援など、多様化・複雑化する福祉課題への具体的な取り組みが提示され、実践と研究の相互補完の必要性が示唆されました。

参加者からは、「自分に何ができるのかを深く考えさせられました」「福祉や心理の専門職としての役割と責任についてあらためて考えさせられました」といった感想が寄せられました。